

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年5月17日(金)

活動隊員:宮前 繁

1. 活動期間

2024年5月14日(火)8時 ~ 2024年5月16日(木)17時

2. 活動場所

避難所:珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

仮設住宅:正院町第1団地(珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

正院町第2団地(珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町正院2部1番地)

宝立町第1団地(珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83)

個人宅:宝立地区

3. 石川県珠洲市の被害状況(5月8日14:00時点 石川県庁情報)

人的被害 死者:103人 うち災害関連死:6人 負傷者:重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:7,220棟 非住家被害:5,991棟

通水率 68.5%(通水軒数3,290軒/4,800軒、未開通1,510件)

宅内配管の修繕工事が約3か月待ち、3,290軒中1,700軒程度が工事待ちのため、建物内で上水が使用できるのは約1,590軒、33%程度の見込み)

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校 5月15日:28人

正院公民館 5月14日:6人

【避難所運営及び生活状況】

1)大谷小中学校 訪問日時:5月15日(水)8:00頃

外部常駐支援終了後、避難所利用者で役割分担し、自主運営を継続されていた。避難者数の大幅な増減はないが、時折2次避難先等から一時的に戻られる避難者の出入りがある。依然上下水道は復旧していない。避難所に日中滞在されている方は、ほとんどおらず、皆さん仕事や片付けに行かれていた。

2)正院公民館 訪問日時:5月14日(火)13:00頃

自主運営を継続されていた。本部長は、避難者数が減り自立している方のみであるため、避難所内の状況は落ち着いていると話されていた。気温の寒暖差が生じる時期になったが、体調不良者も出ていない。

5. 仮設住宅の状況

【正院町第1団地:正院小中学校グラウンド76戸】訪問日:5月14日(火)、15日(水)、16日(木)

敷地内の道は舗装が完了していたが、住居周辺等の砂利である場所には、水溜りが散見された。玄関の

近くにプランター、日よけ、ベンチ、置物等が設置されており、各お宅の特徴が見られるようになっていた。集会所でのお茶会は、火・水・木で開催され、それ以外にも支援者や地区長会によるイベントが開催されていた。活動期間中には、キッチンカーの来訪があり集会場の前が賑わい、多くの笑顔が見られた。また、今後も炊き出しイベント等が計画されていた。

【正院町第2団地：正院ゲートボール場28戸】訪問日：5月16日（木）

5月8日から入居開始になったばかりであり、家の中に荷運びされる様子が散見された。住民の方にお話をうかがうと、まだ越してきたばかりで、これからひとつずつ進めていくと話されていた。

【宝立町第1団地：宝立小中学校グラウンド153戸】訪問日：5月16日（木）

153戸と敷地が広く、車両で各棟の近くまで行けるようになっており、駐車場は分散されていた。また団地入口には花壇が設けられており、隣接の小中学校の生徒と分担して水やり等の管理が行われていた。訪問日、団地内の集会所は使用されていなかったが、集会所前の掲示板には今後のイベント等について、多様な情報が掲示されていた。

6. 支援活動の実際

【避難所巡回支援：大谷小中学校】

本部長より近況をうかがうと、避難者は数名の出入りがあるが徐々に人数が減り、運営としては落ち着いているとのことであった。まだ上水は復旧していないが、もう近くまで修繕が終わっているため、直に通水される見込みとのこと。しかしながら、建物内の配管修理も必要であることから、上水が使用できるまでには、まだ時間を要する状況であった。

前回相談のあった2件について、認知症の母と息子のご家族は県外に移られていた。もう1件の高齢独居男性は、血圧測定や身体の状況を確認させていただきながら、近況をうかがった。先日入浴されてきており、衣服もキレイな物に着替えられていた。洗濯は、親戚の方に週1回行っていただき、入浴は1-2週間に1度は行くようされていた。これから暑い時期にもなるため、定期的な入浴、着替えを改めてお願いした。日中は家屋の片付けに行かれているが、眺めている時間が多く、まだあまり進んでいないとのこと。また通電の手続きが済んでおらず、電気が使えないことから、本部長にサポートいただき手続きを進めることになった。また、日中避難所内にいることが多い高齢男性の方に、お話をうかがった。活動量が少ないためか、足が浮腫み、たまにだるい時があると心配されていた。散歩にお誘いし、下肢の体操を一緒に実施した。

避難者の方々の表情は穏やかであり、お話をうかがう中でも多くの笑顔が見られた。また、市内までの道路の修繕が進み、受診や買い物に行きやすくなったという話が聞かれ、生活行動の拡がりが見受けられた。

【仮設住宅支援：正院町第一団地、第二団地】

1 要フォロー者等の訪問

要フォロー者の方を含め、10世帯（14日3世帯うち1世帯面談、15日3世帯うち2世帯面談、16日4世帯うち3世帯面談）の訪問を行った。以前の不安が解消されていた方、また仕事を再開され忙しくされている方もいたが、一方で、外出機会が減り飲酒量が増加している方、家族の認知症が進行し老々介護に苦慮されている方もいた。引き続き、健康増進課、福祉課、ささえ愛センターと情報共有のうえ、継続フォローしていくことになった。

1 お茶会開催

開催場所：正院町第一団地集会場

開催日時：5月14日（火）～16日（木）10:00～12:00

参加者数：5月14日（火）15人、5月15日（水）13人、5月16日（木）16人

① 5月14日（火）

集会場に設置されている卓球台を使用されている方々、参加者の方が作られたアクセサリーを身に付けおしゃべりされている方々など、各々が交流を楽しんでいた。また、民生委員によるシルバーリハビリ体操を全員で実施した。血圧を測定しながら、お一人お一人のご状況、健康や生活面のお話をうかがった。家で血圧を測定している方が多く、最近血圧が高いと気にされている方が多かった。

② 5月15日（水）

集まられた方々とプランター作りを行った。25kgの土袋を手分けして運び、慣れた手つきでグラジオラスの球根を植えられていた。完成したプランターを集会所前に並べ、およそ3か月後に花が咲くことを楽しみにされていた。また希望される方は、小さな植木鉢に自宅用の球根を植え、持ち帰られていた。血圧手帳を失くされた方、持っていらっしゃらなかった方もいたため、血圧手帳をお配りしながら血圧測定を行った。お茶会終了間際には、キッチンカーの来訪があり、集会場の前が賑わった。集会場内でも、多くの方々が集まってお話ししながら食事をされており、笑い声が絶えなかった。

③ 5月16日（木）

アルファ化米の美味しい作り方と題し、炊飯器でアルファ化米の調理を行った。完成したアルファ化米をみんなでいただきながら、話はずんでいた。おにぎりにして持ち帰られる方、異なる味付けのアルファ化米を持って帰られる方など、皆さん気に入られた様子であった。話題の多くは、周辺地域の状況に関する情報共有などであるが、キリコまつり再開に向けた相談も行われていた。多くの方が血圧手帳を持参されるようになり、中には、家で血圧測定をすると高いが集会場で測定するとちょうど良いという方もおられ、「ここ（お茶会）にいるとリラックスするからかしら」と笑顔で話されていた。

【仮設住宅支援：宝立町第一団地】

1 要フォロー者等の訪問

要フォロー者の方に対し、16日に5世帯訪問うち3世帯面談を行った（別途14日に宝立町の在宅2世帯うち1世帯面談した）。喫煙量が増えている方、コンビニ弁当中心の食生活になっている方もおり、個々の状況をうかがいながら、少しずつ健康的な生活ができるように提案を行った。また知人と離れてしまった、誰がどこにいるかわからない、全戸北側に玄関があるため玄関でのちょっとした挨拶など周辺の方の顔を見る機会も少ないなどの意見も聞かれ、コミュニティの再構築に向けた取り組み状況を確認しながら、必要に応じて支援していく必要がある。

前回に引き続き、高齢夫婦で妻に希死念慮がある世帯を訪問、夫は病院受診中であり今月上旬より夫の容態が良くないと話された。既に健康増進課や福祉課にて介入されているが、被災後のつらい経験について繰り返し訴えられており、被災によるストレス障害の可能性も踏まえ、精神保健福祉士の介入を

提案した。

【コミュニティ支援：コミュニティの構築を考える会】

開催場所：正院町第一団地集会場

開催日時：5月15日（水）19:00～20:00

参加者数：12人

コミュニティの再構築について、正院地区区長、正院公民館長、正院地区民生委員、青年福祉委員、青年団、消防団、珠洲健康増進センターの方々が集まり、「正院町におけるコミュニティの課題と今後について」話し合いが行われた。第5回目であった当日は、ワークショップ形式で区長会・応急仮設住宅の代表、また自治会・町内活動のあり方、展望等について意見交換が行われた。また今後予定されているイベント、今年度の行事についての情報共有、健康増進センター所長より現在の取り組み状況や住民からあがった問題への対応状況について情報共有があった。ワークショップでは、現在の区長会や自治組織の実情について情報共有、意見交換が行われ、さらに応急仮設住宅の代表者の選出方法、子どもを中心とした町内活動、多くの人に参加しやすいイベントの実施などについても意見があがっていた。今後も、話し合いの機会を設けられるように支援を継続していく。

7. 支援活動を通しての所感と課題

仮設住宅の入居が進み、仮設住宅に入れて安心したという声が聞かれる一方、仲の良かった方と離れてしまったという声も聞かれた。各団地において、新たなコミュニティの模索が始まり、集会所の管理、ゴミ出し、団地内の清掃、自治会費の扱いなど、具体的問題の解決に向けた検討が進められていた。そこには、先を見て歩み続ける方、一旦休憩されている方、立ち止まってしまわれた方、遅れて合流された方と多様な歩みがあった。住民の方々からは、各々が互いの状況を確認しながら歩調を合わせようとする強いつながり、そして珠洲を盛り上げようとする強い思いが感じられた。つながり、思いをコミュニティの再構築へと発展させ、この過程において、取り残される方が生じぬよう災害関連死の予防を踏まえた関わりを継続していくことが求められる。

具体的な取り組みとして、“交流の促進”と“夏季に向けた準備”の2点があげられる。交流の促進は、社会的孤立の予防を通じて、生活不活発病や認知症の予防にも働きかけることである。仮設住宅への入居が進み、新たな生活を開始された方が多くいる。中には、周りが何をしているか分からない、知っている人がいないという状況で、家の中で過ごす時間が多くなった方もいた。この状況が続くと、筋力の低下等生活不活発病につながるとともに、認知症の発症や増悪をもたらす危険性があり、長期化していくことで社会的孤立に至り、さらに心身の状態も悪化するという悪循環を起こす。そのような状況が生じぬよう、新たなコミュニティの模索が始まった現段階において、積極的に交流の促進を行いながら、コミュニティにおける住民一人一人の役割と人と人とのつながりを培い、既存の取り組みとして行われたパワフル体操等の行事を再開していく必要があると考える。また高齢化率の高い地域でもあるため、生活不活発病や認知症予防の観点から支援の行うことは極めて重要である。夏季に向けた準備として、熱中症の予防があげられる。今年も酷暑が予測されており、適切な空調の使用法、水分補給、農作業等屋外作業時の留意点、注意すべき症状等について、早い時期から情報提供を行い、健康障害の予防に働きかけていく必要がある。そして、環境の再整備がある。団地内の住宅周辺には、水溜りが散見されていた。自然豊かな土地であるため、住宅周辺で蚊等の害虫が大量に発生しないよう対応策を講じていく必要がある。

プランター作りの様子



アルファ化米調理の様子



キッチンーの来訪に販わう様子

